昭和56年7月

くすり博物館だより

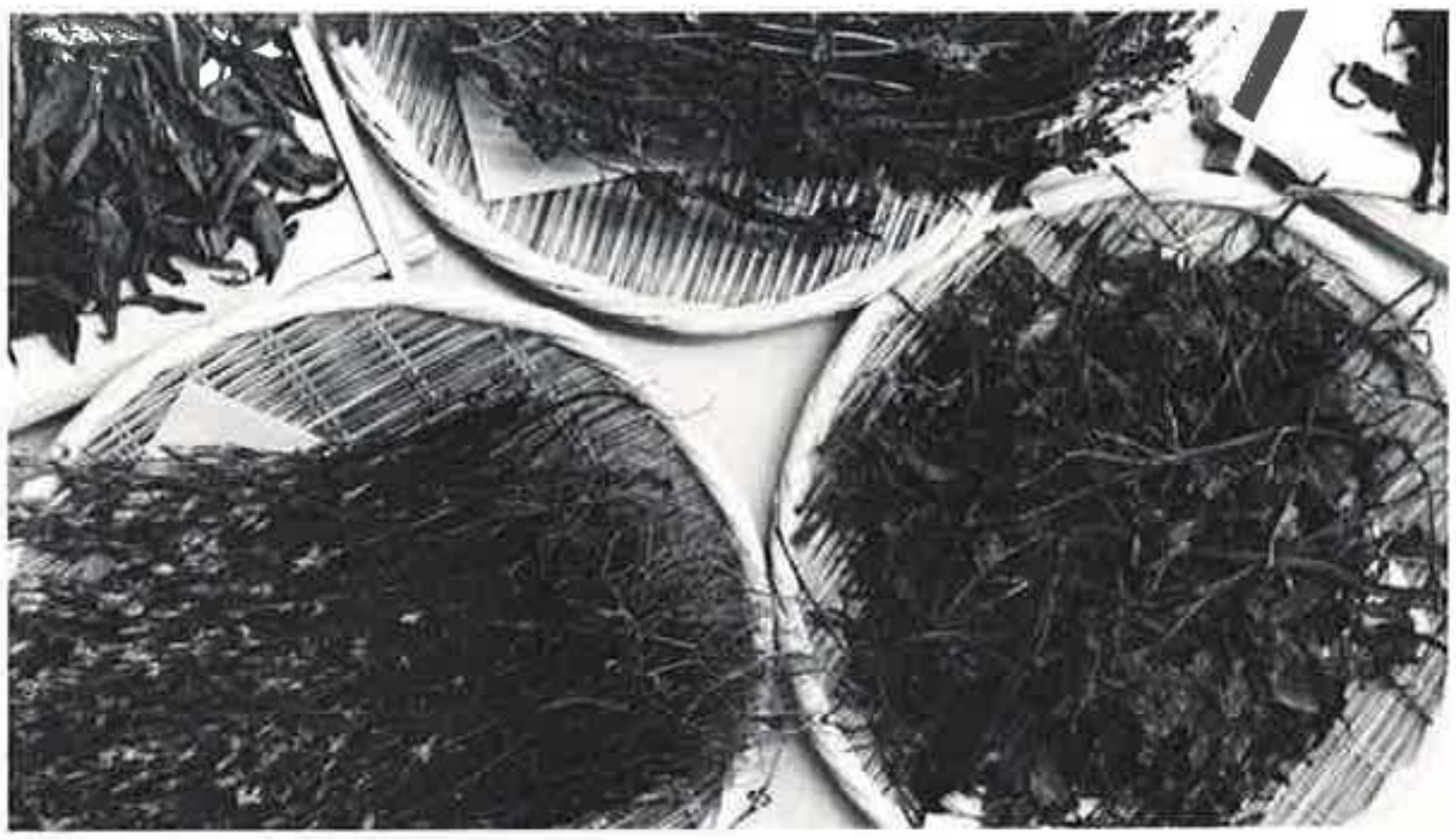
〒483　岐阜県羽島郡川島町・内藤記念くすり博物館・Phone: 058689−3111

第8号

特別展

暮らしに生かそう
—身近な薬用植物—

- 昭和56年7月28日から11月29日
- 内藤記念くすり博物館3階展示場ならびに付属薬用植物園において



夏休みや秋の遠足に，学生や生徒の皆さん，ご家族連れで，気軽に見学でき，身のまわりの植物に関心を持って頂こうと特別展を開きました。

〔A〕身近な薬用植物

漢方薬と民間薬

漢方薬と民間薬は，よく混同されますが，どう違うのでしょう。

漢方薬は，漢方医学の証に従って処方され調合されたものです。多くは，複数の生薬が混ぜ合わせられます。

また民間薬は，生活の知恵が代々伝えられたもので，ゲンノショウコ（下痢止め）センブリ（胃痛）など愛用されています。多くは単味で用います。

博物館に展示（2F）してある約1000種の生薬標本も併せてご覧下さい。犀の角，蛇，猿の頭など，こんなものが薬になるのかと，意外に思われるかも知れません。

味の極みは香りにある(?)——西洋の歴史をも左右した香辛料の世界——

「男の値打ちは本棚を，女の値打ちはスパイス棚を見ればわかる」という西洋の諺の是非はともかくとして，香り高い香辛料は食欲を増進し，胃腸の働きを助けます。

香辛料の展示コーナーでは，47種類もの標本を，実際に見たり匂いを嗅いだり，植物園で育っている実物を観察したりしましょう。

●混合香辛料の代表——カレー粉

おとなも子供も大好きなカレーの実体は15〜30種にも及ぶ香辛料です。ヒンズー語で「香り高いもの」「おいしいもの」という意味を表わすカレーの，あの黄色はウコンの根でつけられています。

●和風スパイスの代表——七味唐辛子

おなじみの七味唐辛子は，唐辛子にミカンの皮やけしの実・ごま・麻の実・山椒，それに菜種か紫蘇，あるいは青海苔を加えたものです。

●バニラの花——熱帯のラン

お菓子づくりに欠かせないのがバニラエッセンス。ここでは，バニラの実から直接匂いを嗅いでみましょう。

▶バニラの花

生活の中の植物

●染める

合成染料の出現で少なくなりましたが，草木染めにはそれなりの美しさがあります。栗やクチナシなど身近な植物で染め上げた布の色あいを見て下さい。

藍色・紫色・茜色などと言いますが，アイやムラサキ，アカネはどんな草でしょう。口紅を作るベニバナやマーガリンの色つけに使うベニノキなども植物園にあります。

▶藍玉

◀ムラサキ

●野外生活の知恵

ハイキングなどで虫にさされたりかすり傷などした時，ヨモギの葉をもんでつけると良いのです。他にどんな植物が役に立つでしょう。

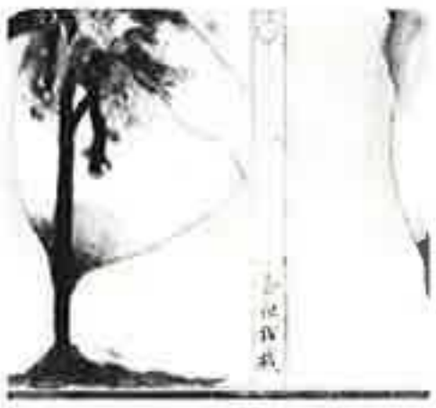
●おじゃま虫？

蚊取り線香の原料（シロバナムシヨケギク）や衣服の防虫剤・樟脳の材料（クスノキ）は，植物園でも見られます。

●気をつけよう――毒になる木

チョウセンアサガオは，華岡青洲が世界で初めて全身麻酔に成功し，乳ガンの手術をした時の麻酔剤「通仙散」の材料の一部です。植物園で観察できますが，手で触れては危険です。その手で目をこすると瞳孔が開きます。その他にも知らない草や実は食べてはいけません。

▶乳ガン手術の図



この他，花粉アレルギーを起こす植物，嘗めてみると甘かったり（ステビアなど），スッとしたり（ミントなど），さまざまな植物があります。植物園・温室も注意深く観察してみて下さい。

薬用酒と薬用茶

ハブ茶・ハトムギ茶・カキノ葉茶・クコ茶など12種類ほどのお茶を，日替りで楽しんで頂けます。品切れ注意。梅酒・トウキ酒・ニンジン酒など15種類ほどの薬用酒も展示します。

薬用植物園

博物館を出たら左手にある植物園を歩いてみましょう。

温室と併せて約300種の薬用植物が植えられています。特別展でメモしたことを，生きている植物にふれて確かめてみられます。

	チョウセンアサガオ		
		トウキ	
	ヤエチョウセンアサガオ		コンニャク他
	ヨウシュチョウセンアサガオ	ゲンノショウコ	ハトムギ
	ジギタリス		
ホップ	アオジソ	ハブソウ	マオウ
		ウコン	ワタ
	サフラン		シソ
			ラベンダー
	ハッカ		
		アイ	
アカネ	ステビア	ベニバナ	シロバナムシヨケギク
			テンダイウヤク ニッケイ

〔B〕江戸時代の植物図鑑

● 本草図譜

"薬の本（もと）となる草" すなわち薬草ですが，これら薬物を研究する学問を本草学といいます。中国から入ってきたり，日本で独自の発展を遂げた本草書など多くあり，図書室にも納めてありますが，ここでは特に図の美しい本草図譜，草木図説，経史証類大観本草など展示してあります。

本草図譜は，江戸時代の薬用植物の図鑑として最も秀れたもので，岩崎灌園の著，全96巻の大著です。

● ドドネウスの「草木誌」1554年版

鎖国時代，西欧への小さな窓・出島を通じて入ってきた西洋の植物学書がありました。

オランダの有名な植物学者ドドネウスの「草木誌」は世界的に普及，1653年以前に日本にも渡ってきましだが，リンネ以前の植物学として注目に価すべき本で，世界的稀構（きこう）書です。また，鎖国下の日本を西欧に紹介した人の一人，スウェーデン人ツュンベリーは，有名なリンネの高弟で，蘭館医として来日中，日本の植物を研究，「日本植物誌」など著しています。（5階展示場も参考にして下さい）

● ショメールの動植物辞典

1810年オランダ商館長ヅーフから幕府が買い上げたショメールの辞典の翻訳事業は，約30年かかり大槻玄沢らによって成されましたが，この事業により蘭学が幕府に認められ，ますます隆盛しました。こうした雰囲気の中でシーボルトが来朝，多くの優秀な青年が学び，各地に蘭学塾ができ，洋学へと発展していく素地となったのです。

注：博物館だより第2号ご参照。

〔C〕小石川御薬園関係資料

最近収蔵の見出し資料を主軸に，江戸時代の薬草栽培についても触れています。3Pの新収蔵資料，4Pの一口知識の記事をご参照下さい。

◀ 葵・ぼたん紋薬箱

投稿

くすりと日本人の制作を終えて

監督　浜田　徹

もうすでに4年前になりますが，「くすりをつくる」というエーザイのＰＲ映画制作のために，はじめて，くすり博物館を訪れた時の印象を，私は今でも鮮明に憶えています。

エーザイ川島工園の動脈といえるメイン道路が右折して，直線道路になった時，その道路の正面に突然出現した博物館を見て，それから車が，博物館に到着するまでの短い時間の中で受けた，私のある種の感動が，この度の映画「くすりと日本人」の創造の原点になっています。

その時，私は疾走する車の中から，博物館がなぜ，道路の一番奥にあるのかを，創立者の故内藤豊次氏の偉業とともに，偶然にも理解したのです。博物館は，薬学薬業の発展を伝える貴重な資料を，後世に残そうとした創立者である故内藤豊次氏の執念の権化のように，道路を遮って厳然とある。言いかえれば，今後どのように薬学薬業が発展しようとも，人類の病気とのたたかいの証言とも言える貴重な資料は，我々の遺産としてここにあり続ける，と主張しているかのように……。

そのような博物館の存在が，私をうったのだと思います。

その後，「くすりをつくる」の完成試写当日，内藤理事長より，故岡崎寛蔵先生の著書「くすりの歴史」をもとに，映画をつくってはどうかとのお話がありました。企業ＰＲ臭のない，純粋に博物館の教育活動に使える映画で，しかも予算・期間等，いっさいの制限なしに，ということでした。日頃から制限のあるものに慣れ親しんだ者にとって，これは大きな事件であります。いっさいの制限の解放は，創造の理想であると確信してはおりましたが，まさか，それが現実になるとは……。

こうして，くすりの歴史を語る映画についての，いろいろな構想が検討された結果，くすりと日本人の関わりの歴史にしぼった映画にするという結論になりました。

そこで，日本のくすりの歴史を語る上で欠くことのできない中国の取材については，当時，不可能な状態でしたが，これも撮影許可が出るまで待って取材する。現存する資料については，学問的にも最も貴重なものを可能な限り豊富に取材する。そうすることによって，一般の方が見ても楽しく，また専門的立場の方にも参考となるような映画にしたい。「くすりと日本人」の制作は，こうした遠大な構想からはじまったわけです。

それからの2年半に及ぶ取材は，くすりと日本人の関わりの歴史を遡る旅であったと言えます。そこで出逢う貴重な資料の数々。それらの事物から，人間に人格があるように，事物の人格と言いますか，物格をひき出したい。そのためには，事物に対して，あくまでも謙虚でありたい。つまり，人間と事物を等価なものとして見るように心がける。それが歴史を伝えて遺そうとする人間の姿勢ではないだろうかと……。

こうして，多くの方々の御協力を得て，映画は無事誕生したわけです。

この映画は，はからずも，私が最初に感動した博物館を，人間のあくなきロマンの追求の具現として，映画という表現に置き換えようとしたに過ぎないかも知れません。その初発の感動が，創造の原点となって，故内藤豊次氏から内藤理事長へと受け継がれた遠大な博物館構想の一端を担えればとの願いをこめて，私たちはとり組んできました。

それは，くすりの歴史が，その時代や文化と無縁ではなく，むしろその一端を担って，人間のロマンの追求に貢献してきたことを明らかにすることであった，とも言えます。

映画が完成して，はやくも3ヶ月が過ぎました。その間，くすり博物館へのフイルム貸出しの申し込みが途絶えることがないと聞きます。

映画に携った者として，その事が最も気がかりであっただけ，うれしいことです。

新収蔵資料

芥川家旧蔵資料

小石川御薬園は，徳川時代を通じてわが国の薬用植物園のセンター的役割を果たしたところです。その薬園預り（園長格）を代々勤めたのが，芥川家と岡田家でした。

芥川家の縁戚である三田村家（東京都港区元麻布）から，小石川御薬園と芥川家の関係資料239点と図書35冊が寄贈されました。

御薬園栽植図，種苗分譲願などの文書や薬園で使用したハサミなどの器具類，腊葉，本草学・園芸関係の図書など多彩です。幕府から拝領した「皇女和宮愛用の薬箱」「洋薬入り携帯用薬箱」など，すばらしいものも含まれています。

関東大震災や空襲などをかい潜って，ここまで守り伝えてきて下さった三田村家に感謝したいと思います。

棹ばかり

寛政12年創業というツゲ櫛製造の老舗のご主人，星野平次郎氏（東京

都）から寄贈されました。6月の計量週間から3ヵ月，茗荷谷駅前の桐山ビル（エーザイ本社別館）のウィンドウで，秤の展示をしていますが，それをご覧になって当館に寄贈下さったものです。

（注：桐山ビルの展示は昭和54年9月から3ヵ月ごとに展示替えしながらシリーズで続けています。（くすり博物館だより第4号ご参照）

吉井千代田氏蔵書

約1000冊の蔵書が寄贈されました。

氏は1899年生まれですが，日本薬報の主筆，薬事日報の編集局長など勤められ，昭和29年には日本薬史学会の創立に尽くすなどされ，現在も元気に活躍中です。

神農画像（嘉永）ほか27点

前川潔氏（東京都）から寄託されました。中には，江戸時代の富山絵20枚ほどが貼りこまれた枕屏風などもあり，大切にされたものと，その感動を氏の父君が著書「民具のこころ」に書いておられます。

一口知識

◇小石川御薬園のこと

小石川植物園（東京大学理学部付属植物園）は，東京都文京区白山にあって，元は徳川幕府直轄の薬園で，通称「小石川御薬園」といわれていました。

寛永15年（1638），三代将軍家光の命で江戸城の南と北，麻布と大塚に薬園を設けました。

正徳元年（1711），両園とも小石川に移され，芥川小野寺と岡田利左衛門がそれぞれ半分ずつを管理し，幕末まで続きます。御薬園は江戸時代を通じ，わが国の薬用植物の教育研究の中心的役割を果たし，一般にも種苗の分譲など行ないました。

明治になり薬園は東京府に移管され，続いて医学校，文部省などを経て，明治10年東京大学の付属となり今日まで続いています。

「赤ひげ」先生のいた小石川養生所は，この御薬園の中に設けられ，庶民の医療と町医者の研讃の場所となりました。養生所で使っていた井戸は今も残っています。

青木昆陽が甘藷の試作に成功（享保20年1735）したのも，この御薬園の中でした。サツマイモの形をした記念碑が建てられています。

また，明治29年，世界で最初にイチョウの精子を発見したのは平瀬作五郎で，そのイチョウの木が園内にあります。さらに，メンデルが遺伝の実験に用いたブドウの分株や，ニュートンが万有引力を発見するきっかけとなったリンゴの木の分株も園内にあり，訪れる人を楽しませてくれます。

植物園の広さは約16万平方メートルで，緑陰濃い市民の憩いの場にもなっています。

とぴっくす

▶フジテレビ・時代劇スペシャルの撮影

東宝とフジテレビの共同制作番組，真野響子や宇野重吉，前田吟らの主演で，時代劇スペシャル「江戸芙蓉堂医館」が，来たる9月11日（金）午後8時から10時まで，フジテレビをキーステーションに，東海テレビなど全国ネットで放送されます。同番組のタイトルバックに，当館の収蔵資料が使われるために，6月4日撮影が行なわれました。

▶許鴻源教授の来館

6月23日，台湾必安研究所董事長許鴻源夫妻が来館されました

▶NHK・きょうのリポートで放映「生薬標本の山～くすり博物館～」

7月14日（火）にNHK岐阜（39ch）と，7月16日（木）にNHKの東海三県の放送エリア（3ch）で，見出しの番組が放映され好評でした。

▶講談社「日本の博物館」取材

ルーブル・大英・エルミタージュなど主だった博物館を紹介した「世界の博物館」に続いて，「日本の博物館」全13巻が同社から刊行中です。

その第8巻〝科学のあゆみ〟は今秋10月発売予定ですが，〝からだと科学〟の項目で，くすり博物館が取りあげられます。ご期待下さい。

▶映画「くすりと日本人」の反響

全国各地の大学で授業用にと，貸出し依頼が相つぎました。病院や婦人会などの依頼も多く，日比谷図書館には長期貸出しもしました。毎月20件程が出ています。

また，中国語版の映画の題字は，中日友好協会々長である廖承志全人代常務副委員長が揮毫下さいました。

▶朝日新聞・文化欄に携載

6月17日付の朝日新聞夕刊に「創立10周年迎えたくすり博物館」という題で，青木館長の10年を振り返っての寸感が大きく携載されました。

館長青木允夫　学芸員・司書古田恵子（編集担当）　学芸員永平麻実　庶務脇田朋子
くすり博物館9：00～16：00開館（毎月曜日・年末年始　休館）　●お問い合わせは最寄りのエーザイ支店・連絡所に